

京都地下鉄整備株式会社

第1 法人の概要

1 代表者

代表取締役社長 寺田隆志

2 所在地

京都市山科区安朱中小路町 15 番地の 4

3 電話番号

075-502-9001

4 ホームページアドレス

<http://kyoto-ss.co.jp/>

5 設立年月日

昭和 56 年 4 月 20 日

6 資本金

40,000 千円（うち本市出資額 22,000 千円，出資率 55.0%）

7 事業目的

- (1) 鉄道車両の整備
- (2) 鉄道施設の整備
- (3) 電気設備の整備
- (4) 不動産の運営及び管理

8 業務内容

- (1) 高速鉄道電力・電気設備点検の監理
- (2) 高速鉄道建築・機械設備等の監理
- (3) 高速鉄道車両の検査・整備等の監理
- (4) 高速鉄道の駅電気設備の監理
- (5) 北大路バスターミナル等の電気・機械設備等の監理

9 所管部局

交通局高速鉄道部営業課（TEL075-863-5213）

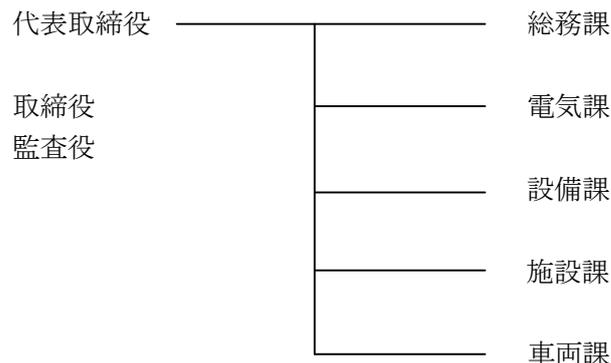
10 役員名等

- (1) 代表取締役社長
寺田隆志
- (2) 取締役
山本登志一（交通局理事），安田淳司（交通局企画総務部長）
- (3) 監査役
四方宏治

11 常勤職員数

42 人（うち本市派遣職員 0 人）

12 組織機構



2 経営状況

1 平成 27 年度決算

(1) 事業報告

ア 事業の実施状況

(ア) 高速鉄道の電力関係

烏丸線の国際会館・竹田間 13.7 キロメートル 15 駅と東西線の六地藏・太秦天神川間 17.5 キロメートル 17 駅、全線 31.2 キロメートル 32 駅の電気室、変電所、電車線路、電力線路等について、整備・点検に係る監理業務及び修繕業務を行った。

(イ) 高速鉄道の車両関係

烏丸線車両 120 両、東西線車両 102 両を対象に、所定の定期検査等の作業に係る監理業務を行った。

(ウ) 高速鉄道の駅施設関係

建築・機械・昇降機・駅電気設備等の定期検査に係る監理業務や修繕業務を行った。

(エ) 市バス営業所等の整備関係

市内各所のバス営業所や整備工場間等の連絡業務、排水処理装置の整備・点検業務を行った。

(オ) 駅間携帯電話不感地対策工事

市営地下鉄東西線の駅間携帯電話不感地対策工事の立会業務を行った。

イ 当期の損益

市営地下鉄東西線の駅間携帯電話不感地対策工事立会業務等を受託したこと、交通局受託業務における修繕費の実績が予算を大きく上回ったこと、減員や欠員による人件費の減少をはじめとした経費削減などを受けて、前期の 2 百万円の赤字と比較し、当期は 4 百万円の黒字となったが、今回の黒字化は、単年度限りのプラス要素も多く、平成 28 年度以降も収支均衡に向けた努力を継続していく。

ウ 今後の課題

赤字解消に向け、引き続き業務の効率化や人件費を中心とした経費の削減に取り組んでいくとともに、一層の受託業務の拡大を図っていく必要がある。

また、質の高い監理業務の遂行には、経験豊富な技術社員の存在が必須であることから、人件費削減を図りつつ、優れた人材の安定的な確保に努める。

(2)財務諸表

貸借対照表
平成28年3月31日現在

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	[168,958]	流動負債	[24,438]
現金・預金	59,918	未払金	10,322
貯蔵品	505	未払法人税等	180
前払金	3,222	未払消費税等	3,853
未収金	105,280	前受金	25
未収還付税金	32	預り金	1,191
		賞与引当金	8,867
固定資産	[50,560]	固定負債	[531]
(有形固定資産)	(53)	退職給付引当金	531
建物附属設備	25	負債合計	24,969
車両運搬具	27		
工具器具備品	0	純資産の部	
(無形固定資産)	(465)	株主資本	[194,549]
電話加入権	419	資本金	[40,000]
ソフトウェア	46	利益剰余金	[183,349]
(投資その他の資産)	(50,042)	利益準備金	10,000
投資有価証券	50,000	その他利益剰余金	(173,349)
預託金	42	事業積立金	100,000
		別途積立金	50,000
		繰越利益剰余金	23,349
		自己株式	[△ 28,800]
		自己株式	△ 28,800
		純資産合計	194,549
資産合計	219,517	負債及び純資産合計	219,517

損益計算書

平成27年4月1日～平成28年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	260,639
売上原価	223,838
売上総利益	36,802
販売費及び一般管理費	33,615
営業利益	3,187
営業外収益	
受取利息及び配当金	189
雑収入	1,172
営業外費用	0
経常利益	4,548
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純利益	4,548
法人税, 住民税及び事業税	180
当期純利益	4,368

株主資本等変動計算書
平成27年4月1日～平成28年3月31日

	株主資本							純資産合計
	資本金	利益剰余金				自己株式	株主資本合計	
		利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
			別途積立金等	繰越利益剰余金				
前期末残高	40,000	10,000	150,000	18,981	178,981	△ 28,800	190,181	190,181
当期変動額								
当期純利益				4,368	4,368		4,368	4,368
自己株式の取得								
当期変動額合計	0	0	0	4,368	4,368	0	4,368	4,368
当期末残高	40,000	10,000	150,000	23,349	183,349	△ 28,800	194,549	194,549

2 平成28年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 高速鉄道の電力設備監理業務

- (ア) 烏丸線：変電所（4箇所）、駅電気室等（19箇所）、電車線路等（13.7キロメートル）
- (イ) 東西線：変電所（5箇所）、駅電気室等（21箇所）、電車線路等（17.5キロメートル）

イ 高速鉄道の電気室・変電所日常点検業務

- (ア) 烏丸線：変電所（4箇所）、駅電気室等（19箇所）
- (イ) 東西線：変電所（5箇所）、駅電気室等（21箇所）

ウ 昇降機設備監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅駅舎等設置昇降機設備の保守業務の
- (イ) 東西線 17 駅 } 調整・監理等を行う。

エ 高速鉄道の駅電気設備監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅消防設備保守点検監理業務及び
- (イ) 東西線 17 駅 } 駅務機器保守点検監理業務等

オ 高速鉄道の建築・機械設備等監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅 高速鉄道施設の建物・機械設備等の統括監理
- (イ) 東西線 17 駅 }

カ 高速車両保守及び作業監理業務

- (ア) 烏丸線：20 編成（120 両）
- (イ) 東西線：17 編成（102 両）

(2) 予算

予定損益計算書
平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	232,000
売上原価	202,700
売上総利益	29,300
販売費及び一般管理費	34,000
営業利益	△ 4,700
営業外収益	
受取利息及び配当金	200
経常利益	△ 4,500
税引前当期純利益	△ 4,500
法人税, 住民税及び事業税	180
当期純利益	△ 4,680

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H25 (決算)	H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (予算)
損益計算書	売上高	274,558	279,410	260,639	232,000
	経常利益	△8,096	△1,946	4,548	△4,500
	当期利益	△8,296	△2,126	4,368	△4,680
	減価償却前利益	△7,272	△1,775	4,673	
貸借対照表	総資産	247,160	220,868	219,517	
	総負債	26,053	30,687	24,969	
	純資産	221,107	190,181	194,549	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H25 (決算)	H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (予算)
委託料	高速鉄道等の施設, 車両の点検整備等の監理	270,108	281,270	280,151	

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	・ 平成27年度は4期ぶりの最終黒字を計上したものの、平成27年度の黒字については単年度限りのプラス要素であり、引き続き、収支均衡を目指して取組を進めてもらいたい。
事業面	・ 「東西線駅間携帯電話不感地対策工事立会業務」を受託するなど、受託業務の拡大と実施を進めることができた。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	・ 4期ぶりの最終黒字となったが、今後も黒字化に向けた取組を継続していただきたい。
事業面	・ 引き続き、専門的な知識や技術を有する人材を確保しつつ、効率的な経営を継続することが必要である。